

ドラムアンサンブルにおける視聴覚情報及び即興演奏の影響
～情動と演奏タイミング・リズムパターンに着目して～

**The influence of audiovisual information and improvisation
in a percussion ensemble: with focus on player's emotion,
performance timing, and rhythm patterns**

学籍番号: 201521617

氏名: 崎野 峻光

Takaaki SAKINO

本研究は、アンサンブル演奏を行う際の視聴覚情報（共演者の姿や演奏音）と即興演奏がもたらす影響に関する調査を行った。実験で視聴覚情報の影響を調べる際は、(1) 視覚 + 聴覚条件、(2) 聴覚のみ条件、(3) 視覚のみ条件の3条件を用意し、それぞれの条件で体験される情動やアンサンブルの演奏タイミングの不一致度、表出されるリズムパターンに着目し検討した。また、即興演奏の影響を調べる際は、(1) アンサンブル演奏中に即興演奏を行う条件（視覚 + 聴覚条件と同一）、(2) アンサンブル演奏中に即興演奏を行わない条件の2条件を用意し、それぞれの条件で体験される情動に着目し検討した。情動に関しては、各演奏に対し予め“否定的感情”、“高揚感”、“落ち着き感”の3因子でグループ分けされた感情語12項目の5段階評価を実験参加者に依頼し、因子毎の5段階評価の合計値を条件間で比較した。

分析の結果、演奏者の情動は聴覚情報の有無によって大きく左右されるが、演奏者は聴覚情報だけでなく視覚情報も参考にすることでポジティブな情動をより強く体験していることがわかった。またアンサンブルの演奏タイミングの不一致度や即興演奏時に表出されるリズムパターンの種類の豊富さは視聴覚情報の影響を受けないことがわかった。

また、アンサンブルにおける即興演奏は演奏者に高揚感をもたらすが、人によっては緊張や苦痛を感じることもある、ということが示唆された。

研究指導教員: 平賀 譲

副研究指導教員: 寺澤 洋子